



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

(代表電話) 03-3964-1141

(予約専用電話) 03-3964-4890

ホームページ <http://www.tmg Hig.jp/>

第155号 (令和3年1月号)



令和3年新年のご挨拶

東京都健康長寿医療センター
センター長 許 俊鋭



新年あけましておめでとうございます。今年も皆様にとって実り多い年となりますようお願いしております。

令和2年は、年初めに中国武漢市から新型コロナウイルス感染流行が報告され、瞬く間に世界中に広がりました。11月の段階で、世界の感染者は5000万人、死者は125万人を上回っており、日本でも死者は1800人を上回りその半数以上が80歳以上の高齢者です。高齢者の高度急性期病院である私共の病院では入院症例の半数以上が80歳以上であり、コロナ感染に対する「水際対策」は高齢者の「安全・安心」を守る最重要事項です。

昨年1年間、私達はあらゆるコロナ対策を取って参りました。2月にはご自宅に処方箋を送るサービスを開始し、4月には連携医療機関の要請に応じ速やかにPCR検査を提供する連携検査外来をオープンしました。6月には熟練した20名の研究所ボランティアの協力により院内PCR検査体制を整え、8月には米国から「Film Array システム」を導入し、救急患者・発熱患者のコロナとインフルエンザ感染を1時間で迅速に診断し、適切な治療を提供するとともに病院全体の「安全・安心」を確保しました。11月の段階で1日最大100件の院内PCR検査(唾液及び鼻腔スワブ)体制が確立し、全身麻酔や内視鏡検査などコロナ感染リスクを伴う全ての症例に迅速にPCR検査を実施しています。全職員の不断の努力により、幸いにも当センターでは1例の院内感染も発生していません。また、4月から東京都の要請に従い都民に「安全・安心」を提供するためにコロナ患者収容ホテル3か所に、11月からは都内5か所に看護師部隊と医師を派遣しています。

私共は高度急性期医療から在宅医療まで西北部二次医療圏における一貫した地域包括ケアシステムを構築すべく、コロナ禍の最中でも高齢者への「安全・安心」を合言葉に「優しく あたたかい医療」を提供して参ります。本年もご指導、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



肝胆膵外科のご紹介

外科部長 なかざと 中里 てつや 徹矢



2020年4月に東京都健康長寿医療センターの外科に外科部長として赴任いたしました中里徹矢（なかざと てつや）と申します。2016年度に1年間当センター外科に在籍しておりました。当センター退職後に米国留学と大学病院勤務を経て、この度ご縁があり戻って参りました。宜しくお願いいたします。

私の専門は消化器外科で、その中でも特に肝胆膵外科を専門としています。肝胆膵外科とは肝臓、胆道、膵臓を対象とした外科のことです。主な疾患は肝臓（肝細胞癌や肝内胆管癌転移性肝癌など）や胆道癌（肝門部胆管癌や肝外胆管癌、十二指腸乳頭部癌など）、膵腫瘍（通常型膵癌や膵神経内分泌腫瘍、IPMN）などの悪性腫瘍から胆石胆嚢炎や総胆管結石、巨大肝嚢胞、慢性膵炎などの良性疾患など多岐にわたります。

肝胆膵外科領域の手術は消化器外科手術の中でも、特に手術工程が複雑で高難度な手術が多いです。現在のがん治療は手術だけでなく抗がん剤を併用した集学的な治療が一般的になっていますが、がんの根治を目指す治療の根幹は依然として手術であり、術後の抗がん剤治療に速やかに繋げるため、手術には根治性と安全性、機能性が求められています。外科医の力量はなかなか外から計ることができません。日本肝胆膵外科学会ではこの難しい手術を安全に、かつ確実に行うことのできる外科医を育てるために高度技能専門医制度を発足させました。高度技能専門医とは高難度肝胆膵外科手術をより安全に、確実に行うことのできる外科医です。2011年に初めて有資格者が誕生し、現在までに367人の肝胆膵外科医が高度技能専門医の資格を取得しています。私は杏林大学での肝胆膵外科修練を経て2017年にこの肝胆膵外科学会高度技能専門医を取得しました。当センターでも合併症の少ない安全で確実な肝胆膵外科手術を提供して参ります。また杏林大学肝胆膵外科とは協力関係にあり、内視鏡外科学会の技術認定医を招聘し低悪性度膵腫瘍に対する腹腔鏡下尾側膵切除術などの腹腔鏡による低侵襲な膵臓手術も積極的に行っています。

膵がん治療の最前線

膵がんは膵臓の膵管上皮細胞から発生したがんです。部位別予測がん罹患数は男性で7位、女性で6位です。しかし罹患数と死亡数がほぼ同数の高い死亡率のため、年間約3.4万人が死亡し、悪性腫瘍死亡者数としては第4位になります。早期診断が非常に難しいがんで、診断がついた時にはすでに進行していることが多く、手術が可能な状態で診断される患者さんは約24%とされています。また、手術で切除が可能でも術後の再発率が高く、手術後の5年生存率は約10-20%と非常に予後不良のがんとして知られています。

従来の膵がん治療は手術可能であればまず手術を先行し、その後に術後補助化学療法として抗がん剤投与を行う治療が標準治療とされてきました。2019年に膵がんに対する術前補助化学療法の多施設共同研究の結果が公表されました。これは切除可能膵がん（境界型を含む）に対して手術前の補助化学療法としてゲムシタビン+TS-1の抗がん剤併用療法を行い、手術後TS-1による術後補助化学療法を行った群と手術先行+TS-1による術後補助化学療法を行った群を比較した研究です（図1）。結果は術前補助化学療法を行った群で有意に予後の改善が認められました（図2）。この結果を踏まえ、当センターでもこの術前化学療法を先行する治療を標準治療として膵がんの治療を行っています。

また近年、膵がんに対する新規抗がん剤やレジメンが登場し、従来の抗がん剤治療と比較して良好な治療結果が得られています。それにより、当初は切除不能局所進行膵がんと診断され抗がん剤治療を受けていた患者さんが、治療による腫瘍縮小効果によって切除可能となり手術治療に至る症例も経験されるようになりました。当センターでも切除不能局所進行膵がんに対して新規抗がん剤を使用した治療を積極的に

行い手術に繋げていく、諦めない膵がん治療を実践しております。

また、当センターの特徴として高齢の患者さんが多いことも事実です。高齢の患者さんはそれぞれ併存疾患や元気さが異なり手術や抗がん剤治療に対して慎重さが必要になります。そのような患者さんには標準治療を踏まえつつ一人ひとりの病状や体力、併存疾患などを考慮して最適な膵がん治療をご提案させて頂きます。

図1

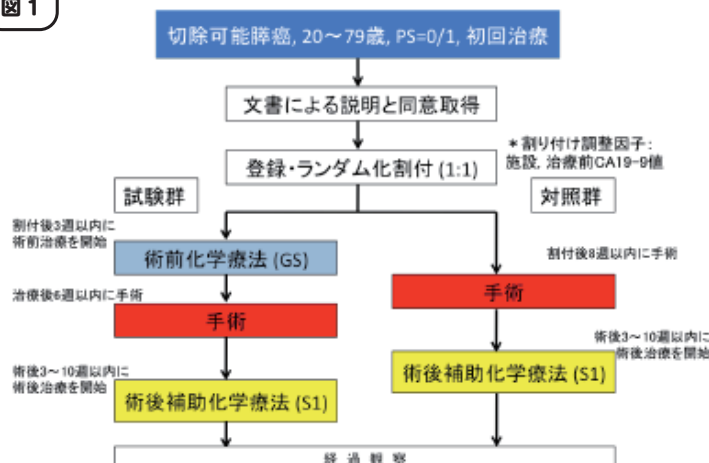
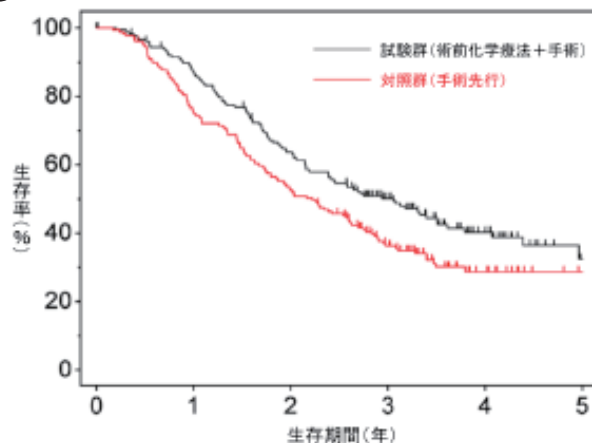


図2



膵癌術前治療研究会

切除可能膵がんに対する塩酸ゲムシタピンと S-1 の併用療法による術前化学療法の有効性を評価するためのランダム化比較試験 (Prep-02/JSAP-05 試験) より。

http://www.surg.med.tohoku.ac.jp/society/prep02_asco-gl2019.html

その他の外科疾患

今回は肝胆膵外科領域、特に膵がんの治療についてご説明をしましたが、当センターの外科では従来通り幅広い消化器・一般外科治療を行っております。胃がん、大腸がんはもとより胆石・胆嚢炎、鼠径ヘルニア、乳腺腫瘍など対象疾患は多岐にわたります。当科は手術治療に際して、その適応や術式の妥当性、安全性について外科カンファレンスにおいて症例検討し、患者さんに最善の外科治療をご提供出来るように日々努めております。

それぞれの専門外来は病院ホームページからご確認ください。肝胆膵外科の専門外来（中里外来）は毎週金曜日午前中です。紹介状をお持ち頂ければ速やかに受診できるように対応いたします。お気軽にご相談ください。

予約方法

肝胆膵外科の専門外来（中里外来）は毎週金曜日午前中です。紹介状をお持ち頂ければ速やかに受診できるように対応いたします。お気軽にご相談ください。

☎ 03-3964-4890 (予約専用)

受付受付時間 月～金 9:00～17:00



当センター外科スタッフとレジデント

新型コロナウイルスなんかに負けない！

呼吸器内科 部長 やまもと ひろし 山本 寛



新型コロナウイルス感染症の拡大と、いまからできる対応の原則

2020年、オリンピックの準備でわき立つ中、未曾有の感染症が日本を、そして世界を震撼させています。新型コロナウイルス感染症です。

コロナウイルスは、以前から「かぜ」の原因ウイルスとしてよく知られていましたが、今回世界中に広まったコロナウイルスは SARS-CoV-2 といい、2002年に一部地域で確認された SARS-CoV と似た特徴をもつウイルスです。

このウイルスでもっともやっかいなのが、「まだ症状が出ていないのに周りの人に感染を広げてしまう」という点です。いま隣りにいる人、いつも親しく話をする人、そして自分の家族、こういった信頼している人でさえ、ウイルスという点では決して安心できない存在にしてしまうということです。逆もしかり。たとえ今、自分に症状がなくても感染している可能性があり、いつでも意図せず周りの人に感染させてしまう恐れがあるというわけです。ワクチンの開発が進んでいますが、現時点(2020年11月末)ではその恩恵にあずかることはできませんから、まずは誰にでもできることとして、日常生活習慣を変えること。これまでの事例検討から、最低限、以下の点に留意していただくと、自分を、周りを、そして社会を守ることにしたいと思います。

- 1) せっけんで手洗い
- 2) マスクの着用
- 3) 周りの人から離れる

常にせっけんで手洗いできるわけではないので、手指消毒に使えるアルコールジェルを持ち歩くこともお勧めです。人が近くにいるときはいつもマスクを着用してください。どうしても会食をしないといけない場合は、対面にならないように気をつけて、まずは食事に集中。食べたならマスクをつけて、会話を楽しみましょう。外出を控えることは有効ですが、特にご高齢の方は筋力が落ちないように、室内でできる運動を積極的に行うようにしてください。



厚生労働省ホームページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html より引用



PCR 検査で早々に診断しよう

新型コロナウイルス感染症の症状で、もっともわかりやすいのが「発熱」です。95%以上の患者さんが発熱するため、「発熱があったらまず PCR 検査」、というのが理想的です。発熱がなくても陽性者の濃厚接触者である場合や、味覚・嗅覚障害などの疑わしい症状がある場合は PCR 検査を行います。これまでの PCR 検査は、鼻の奥深くまで綿棒を入れてこすり、検体を検査機関に送っていました。検査結果が判明するまでの 1～2 日間、患者さんも周りの方も、どのように過ごしたらいいのか簡単には判断できませんでした。

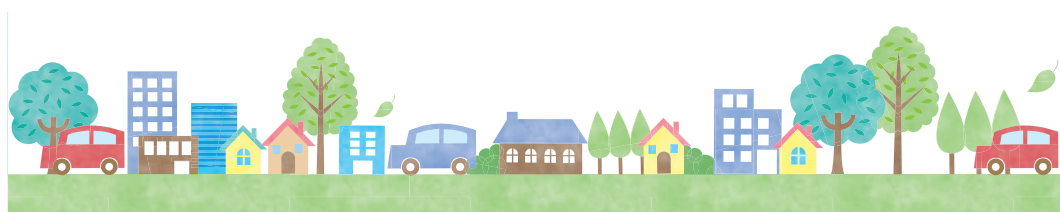
しかし、当院には先日から「フィルムアレイ」という方法で迅速に PCR 検査を行えるシステムが導入されました（写真）。これは新型コロナウイルスだけでなく、インフルエンザを始めとする 18 種類の呼吸器ウイルス、3 種類の細菌を一斉に調べることができ、しかも、わずか 1-2 時間（検体数や検査結果の信憑性によって前後します）で結果がわかります。何日も不安な日々を過ごす必要は、もうありません。発症早期に PCR 検査を行い、陽性かどうかを確認できれば、患者さん自身の行動のしかたや同居のご家族の対応も早い段階で明確になり、感染拡大の抑止にも貢献できるかもしれません。



インフルエンザとのダブル感染は起こるのか？

新型コロナウイルスの感染が拡大する中で冬場を迎え、心配なのはインフルエンザの感染拡大と重なってしまうのではないかと、ということです。一般的には、ある種のウイルスの感染が広がると、別のウイルスの感染は拡大しにくくなります。新型コロナウイルスの感染が拡大している中では、インフルエンザウイルスの感染が拡大する可能性は低そうで、実際、先にコロナ禍で冬を経験した南半球のオーストラリアでは、インフルエンザの感染は広がらなかったそうです。しかし、インフルエンザの感染、そして細菌による肺炎を予防するための対策はこれまでと同様、積極的に取り組んで頂きたいところです。新型コロナウイルスの感染予防対策は、インフルエンザのそれと共通しています。日常生活では、まずはコロナ対策から。そしてインフルエンザワクチンは、特に禁忌がないようでしたら接種することを強く勧めます。そしてウイルスの増殖を防ぎ、肺炎の予防にもなりますので、口の中をいつもきれいに保つように心がけましょう。

インフルエンザか新型コロナかわからない発熱症状があったときに、どう対処したらよいのでしょうか。インフルエンザの抗原検査を従来どおり行い、陽性なら抗インフルエンザ薬、陰性なら新型コロナの PCR 検査も行って結果を待つ、という施設が多いでしょう。それでももちろん良いのですが、当院では上述のフィルムアレイによる呼吸器 PCR 検査でインフルエンザも新型コロナも同時に調べることができます。この冬の強力な助っ人として積極的に活用していきたいと考えています。



外来満足度調査

【結果報告】

令和2年度第1回外来満足度調査を9月29～30日にかけて実施しました。外来患者さんを対象に**合計300名**の方からご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。当センターへの満足度を**5段階**で評価していただいた結果をご紹介します。

◎評価基準＝(満足：5点、ほぼ満足：4点、普通：3点、やや不満：2点、不満1点)

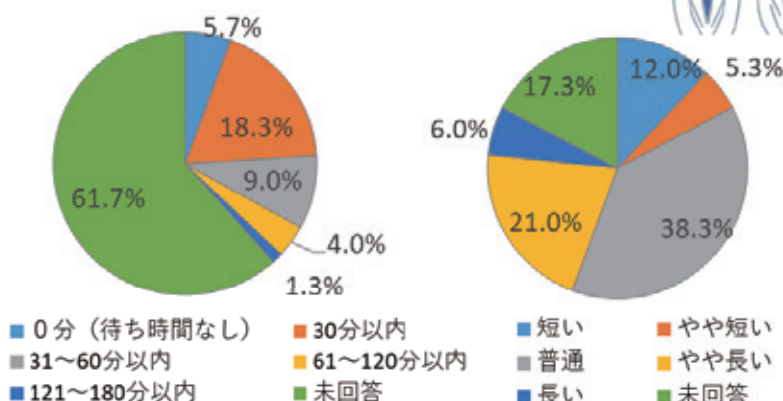


病院全体の満足度 4.4 点
(※前回の調査 4.2 点) **満足度 UP**



PICK UP

今回の満足度調査では、日頃患者からご意見・ご要望を多くいただく**待ち時間**に関する調査項目を設けました。診察・検査・会計などの各所の待ち時間に対する正確な情報提供や待ち時間がより快適な環境となるように検討してまいります。



病院からのお願い

- ▶ 現在、感染症対策として、来院された全ての皆さまに**マスクの着用**とともに**体温測定**をした上で入館いただいています。感染症拡大防止にご協力をお願いいたします。
- ▶ 正面玄関の開場時間は**午前8時**から**午後5時**までとさせていただきます。朝の行列や密を避け、待ち時間を減らすため、時間前の来院は控えていただきますようご協力をお願いいたします。

- ▶ アンケート結果の詳細はホームページに掲載しています。



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

令和2年11月25日 記者発表を行いました！



東京都健康長寿医療センターにて認知症未来社会創造センター開設の記者発表を行いました。発表の様子は公式 Youtube に公開しています。是非ご覧ください。



携帯のカメラでスキャン！

または

Youtube から検索

東京都健康長寿医療センター

検索